

長浜北星高等学校介護職員初任者研修 公表情報

研修 機関 情報	法人 情報	設置者 名称 住所 代表者 研修事業 担当 事業概要	滋賀県 滋賀県立長浜北星高等学校 滋賀県長浜市地福寺町3-72 校長 中澤 成行 教諭 松井 秀徳 福祉系列介護福祉類型定員40名：介護福祉士養成(国家試験受験資格取得)		
	研修 機関 情報	名称 住所 電話 FAX 理念 学則	滋賀県立長浜北星高等学校 総合学科福祉系列介護福祉類型 滋賀県長浜市地福寺町3-72 0749-62-3370 0749-65-1344 生徒の進路保障に向けて、介護に携わる者としての基礎的・基本的な知識・ 技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務 を行うことができるようにする。 下記／別紙1【様式第3号】をご覧ください。		
	研修施設 ・設備	滋賀県立長浜北星高等学校福祉棟 講義室（ソーシャルワーク演習室）、演習室1（介護実習室）、 演習室2（入浴実習室）、演習室3（リハビリ実習室）、入浴更衣室、 生活支援実習室、和室、福祉総合実習室、講師控室			
		* 備品：教育用機器及び模型			
		実習用モデル人形	3体	ストレッチャー	7台
		人体骨格模型	1体	排せつ用具	24個
		人体解剖模型	2体	歩行補助つえ	20本
		介護用ベッド	10床	盲人安全つえ	6本
		移動用リフト	3台	視聴覚機器	12器
		車いす	20台	障害者用調理器具・食器類	1式
		特殊浴槽	1槽	和式布団一式	3式
		家庭用浴槽	2槽	ポータブルトイレ	10台
		中間浴槽	1槽	介護実習用トイレ	1台
		簡易浴槽	1槽	スライディングボード・マット	17台

<p>研 修 事 業 情 報</p>	<p>研修の概要</p>	<p>対 象：滋賀県立長浜北星高等学校総合学科福祉系列介護福祉類型第2学年          研修のスケジュール：下記別紙2【様式第4号-1】をご覧ください。          研修受講までの流れ（募集・手続）：別紙1【様式第3号】をご覧ください。          費 用：下記／別紙1【様式第3号】をご覧ください。          留意事項、特徴、受講へのメッセージ          「訪問介護員（ホームヘルパー）2級に代わる資格です。高齢者介護等の入          所施設や在宅のための事業所（ヘルパーやデイサービス等）において、介護          職員として介護サービスを提供するための基礎的な資格の取得をめざま          す」</p>
<p>研 修 事 業 情 報</p>	<p>課程責任者</p>	<p>課程編成責任者：福祉系列代表 松井 秀徳          課程編成責任者の略歴、資格：別紙4【様式第5号】をご覧ください。</p>
<p>研 修 事 業 情 報</p>	<p>研修 カリキュラム 修了評価</p>	<p>科目別シラバス：下記／別紙3【様式第4号-2】をご覧ください。          科目別担当教官名：下記／別紙4【様式第5号】をご覧ください。          科目別特徴：下記／別紙3【様式第4号-2】をご覧ください。          備品：上記「研修施設・設備」をご覧ください。          修了評価の方法：下記／別紙5【様式第11号】をご覧ください。          修了評価の評価者：下記／別紙1【様式第3号】をご覧ください。</p>
<p>講 師 情 報</p>	<p>氏名・略歴・現職・資格：下記／別紙4【様式第5号】をご覧ください。</p>	
<p>実 績 情 報</p>	<p>過去の研修実施回数           平成27～令和5年度   計    9回          過去の研修延べ参加人数   平成27～令和5年度   計 129名</p>	
<p>連 絡 先</p>	<p>●申し込み・資料請求先          滋賀県立長浜北星高等学校 福祉系列代表 松井 秀徳          住 所：滋賀県長浜市地福寺町3-72          T E L：0749-62-3370          F A X：0749-65-1344          ●苦情対応者：氏 名：山田 正幸          所 属：滋賀県立長浜北星高等学校          役 職：教 頭          連絡先：T E L：0749-62-3370          F A X：0749-65-1344</p>	

## 学 則

① 申請者の住所・事業者名、電話	住 所：〒526-0036 長浜市地福寺町 3-7-2 事業者名：滋賀県立長浜北星高等学校 電 話：0749(62)3370
② 県内の事業所の住所・事業所名、電話	住 所：〒526-0033 長浜市地福寺町 3-7-2 事業者名：滋賀県立長浜北星高等学校 電 話：0749(62)3370
③ 指定を受ける研修事業の名称	長浜北星高等学校総合学科福祉系列介護福祉類型 第 10 回介護職員初任者研修(通学)
④ 研修課程および学習方法	研修課程：介護職員初任者研修課程 学習方法：通学方法
⑤ 開講の目的	生徒の進路保障に向けて、介護に携わる者としての基礎的・基本的な知識・技術とそれを実践する際の考え方のプロセスを身につけ、基本的な介護業務を行うことができるようにする。
⑥ 指令年月日等	令和 6 年 2 月 1 4 日 滋賀県指令医福第 2 3 8 号
⑦ 受講資格	滋賀県立長浜北星高等学校総合学科福祉系列介護福祉類型 第 2 学年
⑧ 定 員	40 名
⑨ 募集・研修期間	(募集) 令和 6 年 4 月 1 日 ~ 令和 6 年 4 月 3 日 (研修) 令和 6 年 4 月 8 日 ~ 令和 7 年 3 月 3 1 日 ※研修期間の初日は開校式の日を言う。
⑩ 研修カリキュラム	カリキュラム日程表(下記/様式第 4 号-1) 研修区分表(下記/様式第 4 号-2) を参照
⑪ 研修会場の名称、住所・講義及び演習	研修会場の名称：滋賀県立長浜北星高等学校実習棟 研修会場の住所：長浜市地福寺町 3-7-2
⑫ 実習施設の名称等	本研修事業としては、実施しない。 (介護福祉士養成校として実施している)
⑬ 使用テキストおよび通信添削課題(出版社と名称等)	テキスト：『最新・介護福祉士養成講座』(中央法規出版) ①人間の理解 ②社会と制度の理解 ③介護の基本 I ④介護の基本 II ⑤コミュニケーション技術 ⑥生活支援技術 I ⑦生活支援技術 II ⑧生活支援技術 III ⑨介護過程 ⑩介護総合演習・介護実習 ⑪こころとからだのしくみ ⑫発達と老化の理解 ⑬認知症の理解 ⑭障害の理解 計 14 冊

<p>⑭ 受講手続き および本人確 認の方法（選 考方法含む）</p>	<p>本校福祉系列介護福祉類型選択手続きによりこの研修課程の受講手続きとする。 入学時提出書類により本人確認を行う。 本校福祉系列介護福祉類型選択決定をもって選考とする。</p>
<p>⑮ 受講料、テ キスト代等お よび支払い方 法 （受講料補助制 度含む。）</p>	<p>受講料については、授業料に含む。 ただし、高等学校等就学支援金が支給されている生徒については徴収しない。 テキストについては、教科書購入時に各自指定の書店で購入する。 テキスト代金：各1冊2,200円×13冊＝28,600円（税別） 「⑪こころとからだのしくみ」のみ 2,600円（税別） 計14冊 31,200円（税別）</p>
<p>⑯ 解約条件お よび返金の有 無等</p>	<p>やむを得ず、自己都合で休学または退学となった場合は、解約となる。 その際、授業料を精算する。 ただし、高等学校等就学支援金が支給されている生徒については授業料を徴収しないため、返金は発生しない。</p>
<p>⑰ 欠席・遅刻 ・早退・受講 取消の取扱基 準</p>	<p>・欠席・遅刻・早退の取扱 講義に出席しなかった者及び講義時間を20分以上欠いた者は、その時間を欠席とし、補講を実施する。 ・受講取消の取扱：下記の者については受講を取り消す。 ①原級留置または退学処分となった者 ②性行不良で改善の見込がないと認められる者 ③学力劣等で修了の見込がないと認められる者 ④正当な理由がなく出席が常でない者 ⑤学校の秩序を乱し、その他生徒としての本分に反した者</p>
<p>⑱ 研修修了の 認定方法、評 価方法と合格 基準</p>	<p>・認定方法：修了を認定した者には修了証明書を交付する。 ・評価方法と合格基準：別添様式第11号を参照</p>
<p>⑲ 補講の方法 および補講料</p>	<p>・補講の方法：原則欠席となった日の翌日に当該教科の補講を行う。 ・補講料については、徴収しない。</p>
<p>⑳ 募集の広報 の方法</p>	<p>・本校のホームページ、学校案内パンフレットの配布、学校説明会、体験入学等にて行う。</p>
<p>㉑ 情報公開の 方法（ホームペ ージ・ブログ等）</p>	<p>・下記ホームページにおいて情報公開する。 <a href="http://www.hokusei-h.shiga-ec.ed.jp">http://www.hokusei-h.shiga-ec.ed.jp</a></p>
<p>㉒ 受講者の個 人情報の取扱</p>	<p>個人情報保護規程作成の有無（有・無） 「滋賀県個人情報保護条例」に基づき適切に取り扱う。 なお、修了者は県の管理する修了者名簿に記載される。</p>

㉓ 受講中の事故等についての対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義・演習ともに安全を確保するように努めるが、万が一の事故については、すべての生徒が保険に加入し、対応する。</li> <li>・傷害保険：(独)日本スポーツ振興センター災害共済給付</li> <li>・賠償責任保険：(社)全高P連賠償責任補償制度</li> </ul>
㉔ 研修責任者名と役職	氏名：中澤 成行 役職：滋賀県立長浜北星高等学校 校長
㉕ 課程編成責任者名と役職	氏名：松井 秀徳 役職：滋賀県立長浜北星高等学校 福祉系列代表
㉖ 情報開示責任者名、役職および連絡先	氏名：松井 秀徳 役職：滋賀県立長浜北星高等学校 福祉系列代表 連絡先：0749-62-3370 (学校代表)
㉗ 苦情相談担当者名、役職および連絡先	<b>【事業者】及び【事業所】</b> 氏名：山田 正幸 役職：滋賀県立長浜北星高等学校 教頭 連絡先：0749-62-3370 (学校代表)
㉘ 事業所の研修担当者名と連絡先	氏名：松井 秀徳 連絡先：0749-62-3370 (学校代表)
㉙ その他研修に関する事項	特になし

## 別紙2 / (様式第4号-1)

## カリキュラム日程表

○研修全体の期間：令和6年4月8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

研修 時期	時間 (h)	科目番号 教科番号・教科名	高校福祉科 科目	講師名	講師要件 資格
1学期		開校式・オリエンテーション	介護総合演習	水口順子	福祉系教員
1学期	3[4] 3[4]	1(1)多様なサービスの理解 1(2)多様な仕事内容や働く現場の理解	介護福祉基礎	松井秀徳 松井秀徳	福祉系教員 福祉系教員
1学期	5[5] 2[3] 2[3]	2(1)人権と尊厳を支える介護 2(2)自立に向けた介護 2(3)人権に関する基礎知識	介護福祉基礎	松井秀徳 松井秀徳 松井秀徳	福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員
1学期	1.5[2] 1.5[2] 1.5[2] 1.5[2]	3(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携 3(2)介護職の職業倫理 3(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント 3(4)介護職の安全	介護福祉基礎	松井秀徳 松井秀徳 岩寄晴美 岩寄晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師 看護師
1学期	4[5] 2[3]	5(1)介護におけるコミュニケーション 5(2)介護におけるチームのコミュニケーション	コミュニケーション技術	西尾胡桃 西尾胡桃	福祉系教員 福祉系教員
1学期	2[3] 4[5]	6(1)老化に伴うところとからだの変化と日常 6(2)高齢者と健康	ところとからだの理解	水口順子 水口順子	福祉系教員 福祉系教員
1学期	1[2] 3[4] 6[6]	9(1)介護の基本的な考え方 9(2)介護に関するところのしくみの基礎的理解 9(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	生活支援技術 ところとからだの理解	高田静江 水口順子 水口順子	福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員
1学期	2[3] 2[3] 8[9] 8[10]	9(4)生活と家事 9(5)快適な居住環境整備と介護 9(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 9(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	生活支援技術 生活支援技術 生活支援技術 生活支援技術	高田静江 高田静江 高田静江 高田静江 水口順子 岩寄晴美	福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員 看護師 看護師
2学期	3[4] 3[4] 3[3]	4(1)介護保険制度 4(2)医療との連携とリハビリテーション 4(3)障害者総合支援制度およびその他の制度	介護福祉基礎 介護福祉基礎 介護福祉基礎	松井秀徳 坂東裕一 岩寄晴美 松井秀徳	福祉系教員 作業療法士 看護師 福祉系教員
2学期	1[1] 2[3] 2[3] 1[1]	7(1)認知症を取り巻く状況 7(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 7(3)認知症に伴うところとからだの変化と日常生活 7(4)家族への支援	ところとからだの理解	水口順子 水口順子 水口順子 水口順子	福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員 福祉系教員

研修 時期	時間 (h)	科目番号 教科番号・教科名	高校福祉科 科目	講師名	講師要件 資格
2 学期	1[1]	8(1)障害の基礎的理解	こころとからだ の理解	西尾胡桃	福祉系教員
	1[2]	8(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の 特徴、かかわり支援等の基礎的知識		西尾胡桃	福祉系教員
	1[1]	8(3)家族の心理、かかわり支援の理解		西尾胡桃	福祉系教員
2 学期	8[9]	9(8)食事に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護	生活支援技術 こころとからだ の理解	高田静江 水口順子 岩崎晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師
	8[9]	9(9)入浴、清潔保持に関連したこころとからだの しくみと自立に向けた介護	生活支援技術 こころとからだ の理解	高田静江 水口順子 岩崎晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師
	8[10]	9(10)排泄に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護	生活支援技術 こころとからだ の理解	高田静江 水口順子 岩崎晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師
	8[9]	9(11)睡眠に関連したこころとからだのしくみと 自立に向けた介護	生活支援技術 こころとからだ の理解	高田静江 水口順子 岩崎晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師
	3[4]	9(12)死にゆく人に関連したこころとからだの しくみと終末期介護	こころとからだ の理解 生活支援技術	水口順子 高田静江	福祉系教員
3 学期	3[4]	9(14)介護過程の基礎的理解	介護過程	高田静江	福祉系教員
	7[8]	9(15)総合生活支援技術演習	生活支援技術	高田静江 水口順子 岩崎晴美	福祉系教員 福祉系教員 看護師
3 学期	3[4]	10(1)振り返り	介護総合演習	水口順子	福祉系教員
	1[1]	10(2)就業への備えと研修修了後における継続的 な 研修		水口順子	福祉系教員
計	130[161] (通学161時間) *130時間(7800分) = 50分の授業を161時間(8050分)で計画 [ ]内の時間数は「1時間=50分」での時間数 ※別添(様式第4号-1:別紙)を参照				
3月 3月 3月 3月		1	修了評価筆記試験 修了判定会議  試験結果集計・採点・合否発表	松井秀徳 水口順子  —	福祉系教員 福祉系教員  —
		1	修了式	—	—

## 研 修 区 分 表

令和6年2月1日作成

\* 研修時間：130時間（7800分）：50分の授業を161時間（8050分）で計画

[ ] 内の時間数は「1時間=50分」での時間数

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通 信	実 習	計	
1 職務の理解 （6時間）	6 [8]	—	—	6 [8]	到達目標：研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
(1) 多様なサービスの理解	3 [4]	—	—	3 [4]	①介護保険サービス（居宅、施設） ②介護保険外サービス <u>演習の実施方法</u> ：グループにわかれて「介護」をテーマにKJ法を用いた討論と情報整理の演習を行う。
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3 [4]	—	—	3 [4]	①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ（視聴覚教材の活用等） ③ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携 <u>演習の実施方法</u> ：居住系サービスと入所系サービスにおいて共通するものと異なるものについて討論し整理する
2 介護における尊厳の保持・自立支援 （9時間）	9 [11]	—	—	9 [11]	到達目標：介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。
(1) 人権と尊厳を支える介護	5 [5]	—	—	5 [5]	(1) 人権と尊厳の保持 ①個人としての尊重 ②アドボカシー ③エンパワメントの視点 ④「役割」の実感 ⑤尊厳のある暮らし、⑥利用者のプライバシーの保護 (2) ICF：介護分野におけるICF (3) QOL：①QOLの考え方 ②生活の質 (4) ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 (5) 虐待防止・身体拘束禁止 ①身体拘束禁止 ②高齢者虐待防止法 ③高齢者の養護者支援 (6) 個人の権利を守る制度の概要 ①個人情報保護法、 ②成年後見制度 ③日常生活自立支援事業 <u>演習の実施方法</u> ：具体的な場面を基に利用者の権利と権利擁護、権利侵害についてグループで討論する。



(2) 自立に向けた介護	2 [3]	—	—	2 [3]	(1) 自立支援 ①自立・自律支援、 ②残存能力の活用 ③動機の欲求 ④意欲を高める支援 ⑤個性／個別ケア ⑥重度化防止 (2) 介護予防：介護予防の考え方 <u>演習の実施方法</u> ：事例を基に利用者の自立と、自立支援に向けた介護職の役割についてグループで討論。
(3) 人権に関する基礎知識	2 [3]	—	—	2 [3]	3 人権に関する基礎知識 ①人権に関する基本的な知識、②同和問題等 <u>演習の実施方法</u> ：具体的な人権侵害の場面に基に、介護職としての在り方、役割についてグループで討論。
3 介護の基本 (6時間)	6 [8]	—	—	6 [8]	到達目標：介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支える視点から支援を捉える事ができる。
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	1.5 [2]	—	—	1.5 [2]	(1) 介護環境の特徴の理解 ①訪問介護と施設介護サービスの違い、 ②地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ①重度化防止・遅延化の視点 ②利用者主体の支援姿勢 ③自立した生活を支えるための援助 ④根拠のある介護 ⑤チームケアの重要性 ⑥事業所内のチーム ⑦多職種から成るチーム (3) 介護に関する職種 ①異なる専門性を持つ多職種の理解 ②介護支援専門員、③サービス提供責任者 ④看護師等とチームとなり利用者を支える意味 ⑤互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供 ⑥チームケアにおける役割分担 <u>演習の実施方法</u> ：事例を基に「介護現場」における各専門職の役割と連携の方法についてグループで討論。
(2) 介護職の職業倫理	1.5 [2]	—	—	1.5 [2]	①専門職の倫理の意義 ②介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、 ③介護職としての社会的責任、 ④プライバシーの保護・尊重 <u>演習の実施方法</u> ：訪問介護の場面において具体的にどのような行為が介護職の義務規定に違反するか、KJ法を用いた討論と情報整理の演習をグループで行う。
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5 [2]	—	—	1.5 [2]	(1) 介護における安全の確保 ①事故に結びつく要因を探り対応していく技術 ②リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ①リスクマネジメント ②分析の手法と視点 ③事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町への報告等） ④情報の共有

					<p>(3) 感染対策</p> <p>①感染の原因と経路(感染源の排除、感染経路の遮断)</p> <p>②「感染」に対する正しい知識</p> <p><u>演習の実施方法</u>: 転倒のリスクとその予防のための対策、方法について検討し、発表する。</p>
(4) 介護職の安全	1.5 [2]	—	—	1.5 [2]	<p>介護職の心身の健康管理</p> <p>①介護職の健康管理が介護の質に影響、</p> <p>②ストレスマネジメント</p> <p>③腰痛の予防に関する知識</p> <p>④手洗い・うがいの励行 ⑤手洗いの基本</p> <p>⑥感染症対策</p> <p><u>演習の実施方法</u>: パーンアウト症候群について、その症状や予防、対策について各自整理する。</p>
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	9 [11]	—	—	9 [11]	<p>到達目標: 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。</p>
(1) 介護保険制度	3[4]	—	—	3[4]	<p>1 介護保健制度</p> <p>(1) 介護保険制度創設の背景および目的、動向</p> <p>①ケアマネジメント</p> <p>②予防重視型システムへの転換</p> <p>③地域包括支援センターの設置、</p> <p>④地域包括ケアシステムの推進</p> <p>(2) 仕組みの基礎的理解</p> <p>①保険制度としての基本的仕組み</p> <p>②介護給付と種類</p> <p>③予防給付 ④要介護認定の手順</p> <p>(3) 制度を支える財源、組織、団体の機能と役割</p> <p>①財政負担 ②指定介護サービス事業者の指定</p> <p><u>演習の実施方法</u>: 各自が居住する市町村の介護保険料や介護保険の事業所及び施設について調べ、整理する。</p>
(2) 医療との連携とリハビリテーション	3 [4]	—	—	3 [4]	<p>①医行為と介護 ②訪問看護</p> <p>③施設における看護と介護の役割・連携</p> <p>④リハビリテーションの理念</p> <p><u>演習の実施方法</u>: 事例を基に介護職と看護職の連携の在り方、方法についてグループで討論する。</p>
(3) 障害者総合支援制度およびその他の制度	3 [3]	—	—	3 [3]	<p>(1) 障害者福祉制度の理念</p> <p>①障害の概念、② I C F (国際生活機能分類)</p> <p>(2) 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解</p> <p>介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで</p> <p>(3) 個人の権利を守る制度の概要</p> <p>①個人情報保護法 ②成年後見制度</p> <p>③日常生活自立支援事業</p> <p><u>演習の実施方法</u>: 各自が居住する市町村において連携して支援できる機関や事業所について調べ、整理する。</p>
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	6 [8]	—	—	6 [8]	<p>到達目標: 高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき(取るべきでない)行動例を理解している。</p>

(1)介護におけるコミュニケーション	4 [5]	-	-	4 [5] (1) 介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ①相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮 ②傾聴 ③共感の応答 (2) コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ①言語的コミュニケーションの特徴 ②非言語コミュニケーションの特徴 (3) 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ①利用者の思いを把握する ②意欲低下の要因を考える ③利用者の感情に共感する ④家族の心理的理解 ⑤家族へのいたわりと励まし ⑥信頼関係の形成 ⑦自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、 ⑧アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い (4) 利用者の状況・状況に応じたコミュニケーション技術の実際 ①視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術 ②失語症に応じたコミュニケーション技術 ③構音障害に応じたコミュニケーション技術 ④認知症に応じたコミュニケーション技術 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組やグループにわかれて、場面設定や事例をもとにロールプレイや討論を行う。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	2 [3]	-	-	2 [3] (1) 記録における情報の共有化 ①介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、②介護に関する記録の種類、③個別援助計画書（訪問・通所・入所・福祉用具貸与等）、④ヒヤリハット報告書、⑤5W1H (2) 報告 ①報告の留意点、②連絡の留意点、③相談の留意点 (3) コミュニケーションを促す環境 ①会議、②情報共有の場、③役割の認識の場（利用者と頻りに接触する介護者に求められる観察眼）、④ケアカンファレンスの重要性 <u>演習の実施方法</u> ：事例をもとに適切な記録の方法について演習を行う。
6 老化の理解 (6時間)	6 [8]	-	-	6 [8] 到達目標：加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	2 [3]	-	-	2 [3] (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ①防衛反応（反射）の変化、②喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ①身体的機能の変化と日常生活への影響 ②咀嚼機能の低下 ③筋・骨・関節の変化 ④体温維持機能の変化 ⑤精神的機能の変化と日常生活への影響 <u>演習の実施方法</u> ：視聴覚教材や事例をもとに小グループに分かれて高齢期の心情等について討論を行う。

(2) 高齢者と健康	4 [5]	—	—	4 [5]	<p>(1) 高齢者の疾病と生活上の留意点</p> <p>①骨折、②筋力の低下と動き・姿勢の変化、③関節痛</p> <p>(2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点</p> <p>①循環器障害（脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患）、 ②循環器障害の危険因子と対策、 ③老年期うつ病症状（強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症）、 ④誤嚥性肺炎、⑤病状の小さな変化に気付く視点、 ⑥高齢者は感染症にかかりやすい</p> <p><u>演習の実施方法</u>：生活習慣病を取り上げ、具体的な生活習慣との関係について各自調べ、整理する。</p>
7 認知症の理解（6時間）	6 [8]	—	—	6 [8]	<p>到達目標：介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している。</p>
(1) 認知症を取り巻く状況	1 [1]	—	—	1 [1]	<p>認知症ケアの理念</p> <p>①パーソンセンタードケア ②認知症ケアの視点（できることに着目する）</p> <p><u>演習の実施方法</u>：視聴覚教材や事例をもとに小グループに分かれて認知症の方の心情や求めるものについて各自考え、発表する。</p>
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2 [3]	—	—	2 [3]	<p>認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理</p> <p>①認知症の定義、②もの忘れとの違い、③せん妄の症状、④健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、⑤治療、⑥薬物療法、⑦認知症に使用される薬</p> <p><u>演習の実施方法</u>：認知症と類似症状（せん妄、うつ病）の違いについて、各自整理する。</p>
(3) 認知症に伴うこととからだの変化と日常生活	2 [3]	—	—	2 [3]	<p>(1) 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>①認知症の中核症状 ②認知症の行動・心理症状（BPSD） ③不適切なケア ④生活環境で改善</p> <p>(2) 認知症の利用者への対応</p> <p>①本人の気持ちを推察する、 ②プライドを傷つけない ③相手の世界に合わせる ④失敗しないような状況をつくる ⑤すべての援助行為がコミュニケーションであると考えること ⑥身体を通じたコミュニケーション ⑦相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する ⑧認知症の進行に合わせたケア</p> <p><u>演習の実施方法</u>：グループで役割を決め交代しながら、認知症の方への関わり方についてロールプレイを行う。</p>
(4) 家族への支援	1 [1]	—	—	1 [1]	<p>①認知症の受容過程での援助 ②介護負担の軽減（レスパイトケア）</p> <p><u>演習の実施方法</u>：認知症の方を介護する家族への関わり方について、グループで討論する。</p>
8 障害の理解（3時間）	3 [4]	—	—	3 [4]	<p>到達目標：障害の概念とICF、障害者福祉の基本的考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。</p>

(1) 障害の基礎的理解	1 [1]	—	—	1 [1]	(1) 障害の概念と I C F ① I C F の分類と医学的分類、② I C F の考え方 (2) 障害者福祉の基本理念 ① ノーマライゼーションの概念 <u>演習の実施方法</u> : 「障害」とは何か、「障害者の自立」という視点から自分の考えをまとめる。
(2) 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1 [2]	—	—	1 [2]	(1) 身体障害 ① 視覚障害 ② 聴覚、平衡障害、 ③ 音声・言語・咀嚼障害、④ 肢体不自由、⑤ 内部障害 (2) 知的障害: ① 知的障害 (3) 精神障害 (高次脳機能障害・発達障害を含む) ① 統合失調症・気分(感情障害)・依存症などの精神疾患 ② 高次脳機能障害 ③ 広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害 などの発達障害 (4) その他の心理の機能障害 <u>演習の実施方法</u> : 障害を受容していく過程で必要な支援についてグループで討論する。家族への支援
(3) 家族の心理、かかわり支援の理解	1 [1]	—	—	1 [1]	① 障害の理解・障害の受容支援、② 介護負担の軽減 <u>演習の実施方法</u> : 障害のある子どもをもつ親の負担について、各自考えをまとめて発表する。
9 ところとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	75 [90]	—	—	75 [90]	到達目標: 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立および自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
【 I 基本知識の学習】 (10時間)	10 [12]	—	—	10 [12]	
(1) 介護の基本的な考え方	1 [2]			1 [2]	① 倫理に基づく介護 ( I C F の視点に基づく生活支援、我流介護の排除)、 <u>演習の実施方法</u> : 排泄介護の場面において、介護職としてどのようなことに留意すべきか各自考えをまとめ、発表する。
(2) 介護に関するところのしくみの基礎的理解	3 [4]	—	—	3 [4]	① 学習と記憶の基礎知識、② 感情と意欲の基礎知識、 ③ 自己概念と生きがい ④ 老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因 ⑤ ところの持ち方が行動に与える影響 ⑥ からだの状態がところに与える影響 <u>演習の実施方法</u> : ところのしくみについて、主な役割や加齢に伴う変化について各自整理する。
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6 [6]	—	—	6 [6]	① 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、 ② 骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、 ③ 中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、 ④ 自律神経と内部器官に関する基礎知識、 ⑤ ところとからだを一体的に捉える、 ⑥ 利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <u>演習の実施方法</u> : からだのしくみの視点から転倒の要因について、各自整理する。

【Ⅱ生活支援技術の学習】 (55時間) (4)生活と家事	55 [66] 2 [3]	—	—	55 [66] 2 [3]	家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ①生活歴 ②自立支援 ③予防的な対応 ④主体性・能動性を引き出す ⑤多様な生活習慣 ⑥価値観 <u>演習の実施方法</u> ：一般的な家事と介護職が行う家事の違いについて、グループで討論する。
(5)快適な居住環境整備と介護	2 [3]	—	—	2 [3]	快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ①家庭内に多い事故 ②バリアフリー ③住宅改修 ④福祉用具貸与 <u>演習の実施方法</u> ：高齢者の家庭内事故にはどのようなものがあるか、グループで討論する。
(6)整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [9]	—	—	8 [9]	整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ①身体状況に合わせた衣服の選択 着脱 ②身じたく ③整容行動 ④洗面の意義・効果 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組で更衣介助の演習を行う
(7)移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [10]	—	—	8 [10]	移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ①利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法 ②利用者の自然な動きの活用 ③残存能力の活用・自立支援 ④重心・重力の働きの理解 ⑤ボディメカニクスの基本原理、 ⑥移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗） ⑦移動介助（車いす・歩行器・つえ等） ⑧褥瘡予防 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組で移乗や車椅子介助等の演習を行う
(8)食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [9]	—	—	8 [9]	食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援
					①食事をする意味 ②食事のケアに対する介護者の意識 ③低栄養の弊害 ④脱水の弊害 ⑤食事と姿勢 ⑥咀嚼・嚥下のメカニズム ⑦空腹感 ⑧満腹感 ⑨好み ⑩食事の環境整備（時間・場所等） ⑪食事に関する福祉用具の活用と介助方法 ⑫口腔ケアの定義 ⑬誤嚥性肺炎の予防 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組で食事介助の演習を行う。

(9)入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [9]	—	—	8 [9]	入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害することとからだの要因の理解と支援方法 ①羞恥心や遠慮への配慮 ②体調の確認 ③全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方） ④目・鼻腔・耳・爪の清潔方法 ⑤陰部清浄（臥床状態での方法） ⑥足浴・手浴・洗髪 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組で清拭及び入浴介助の演習を行う。
(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [10]	—	—	8 [10]	排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害することとからだの要因の理解と支援方法 ①排泄とは ②身体面（生理面）での意味 ③心理面での意味 ④社会的な意味 ⑤プライド・羞恥心 ⑥プライバシーの確保 ⑦おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害 ⑧排泄障害が日常生活上に及ぼす影響 ⑨排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連 ⑩一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法 ⑪便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食事を多く取り入れる、腹部マッサージ） <u>演習の実施方法</u> ：紙おむつ体験、小グループに分かれての入浴介助の演習を行う。
(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	8 [9]	—	—	8 [9]	睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害することとからだの要因の理解と支援方法 ①安眠のための介護の工夫 ②環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室） ③安楽な姿勢・褥瘡予防 <u>演習の実施方法</u> ：2人1組にわかれて、ベッドメイキング及び足浴の演習を行う。
(12)死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護	3 [4]	—	—	3 [4]	終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援 ①終末期ケアとは、 ②高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死） ③臨終が近づいたときの兆候と介護 ④介護従事者の基本的態度 ⑤多職種間の情報共有の必要性 <u>演習の実施方法</u> ：終末期の利用者への介護職としての関わり方について、グループで討論する。
【Ⅲ生活支援技術演習】 （10時間） (14)介護過程の基礎的理解	10 [12] 3 [4]	—	—	10 [12] 3 [4]	①介護過程の目的・意義・展開 ②介護過程とチームアプローチ <u>演習の実施方法</u> ：事例を基にアセスメント表の作成を各自体験する。

(15)総合生活支援技術演習	7 [8]	—	—	7 [8]	<p>(事例による展開)</p> <p>生活の各場面での介護については、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。</p> <p>①事例の提示→こころとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題</p> <p>(1事例1.5時間程度で上のサイクルを実施する)</p> <p>②事例は高齢(要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可)から2事例を選択して実施</p> <p><u>演習の実施方法</u>:小グループに分かれて事例について要因を分析し、適切な支援技術について検討し、2人1組にわかれて支援技術について演習を行い、課題を明らかにする。</p>
10振り返り (4時間)	4 [5]	—	—	4 [5]	<p>到達目標:研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。</p>
(1)振り返り	3 [4]	—	—	3 [4]	<p>①研修を通して学んだこと</p> <p>②今後継続して学ぶべきこと</p> <p>③根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)</p> <p><u>演習の実施方法</u>:グループに分かれて研修を通して得たこと、学んだことについて振り返りを行い、その後各自の成果と課題について整理する。</p>
(2)就業への備えと研修終了後における継続的な研修	1 [1]	—	—	1 [1]	<p>①継続的に学ぶべきこと</p> <p>②研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例(Off-JT, OJT)を紹介</p> <p><u>演習の実施方法</u>:研修終了後の継続的な研修の内容や方法について、各自考えをまとめる。</p>



(様式第 1 1 号)

研修修了の評価方法と合格基準

令和 6 年 2 月 1 日作成

1. 出題範囲：テキスト『最新・介護福祉士養成講座』（中央法規出版）

◎テキスト『最新・介護福祉士養成講座①～⑭』（中央法規出版）

『①人間の理解』『②社会と制度の理解』『③介護の基本Ⅰ』  
『④介護の基本Ⅱ』『⑤コミュニケーション技術』『⑥生活支援技術Ⅰ』  
『⑦生活支援技術Ⅱ』『⑧生活支援技術Ⅲ』『⑨介護過程』  
『⑩介護総合演習・介護実習』、『⑪こころとからだのしくみ』  
『⑫発達と老化の理解』、『⑬認知症の理解』 『⑭障害の理解』

2. 出題形式

択一選択形式、正誤選択形式、語句選択形式、記述形式

3. 出題数と配点方法

択一選択問題 15 問（配点各 2 点）、正誤選択問題 35 問（配点各 1 点）  
語句選択問題 20 問（配点各 1 点）、記述問題 5 問（配点各 3 点）  
全問正解 100 点満点

4. 合否判定基準

100 点満点で 70 点以上を合格とする。

5. 不合格になったときの対応方法

不合格者については、再評価を実施する。

1 時間の補講を行い、原則補講の翌日に再評価を 1 時間行う。

補講料・再評価料については、徴収しない。

(様式第 5 号)

講 師 選 定 調 書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日 令和6年2月1日作成

氏 名	松井 秀徳	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	専任																																				
担当科目・教科																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>教科番号</th> <th>資格</th> <th>科目番号</th> <th>教科番号</th> <th>資格</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td>— (1)</td> <td>【1】</td> <td>(3)</td> <td>— (1)</td> <td>【1】</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>— (2)</td> <td>【1】</td> <td>(3)</td> <td>— (2)</td> <td>【1】</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>— (1)</td> <td>【1】</td> <td>(4)</td> <td>— (1)</td> <td>【1】</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>— (2)</td> <td>【1】</td> <td>(4)</td> <td>— (3)</td> <td>【1】</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td>— (3)</td> <td>【1】</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。</p>						科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格	(1)	— (1)	【1】	(3)	— (1)	【1】	(1)	— (2)	【1】	(3)	— (2)	【1】	(2)	— (1)	【1】	(4)	— (1)	【1】	(2)	— (2)	【1】	(4)	— (3)	【1】	(2)	— (3)	【1】			
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格																																				
(1)	— (1)	【1】	(3)	— (1)	【1】																																				
(1)	— (2)	【1】	(3)	— (2)	【1】																																				
(2)	— (1)	【1】	(4)	— (1)	【1】																																				
(2)	— (2)	【1】	(4)	— (3)	【1】																																				
(2)	— (3)	【1】																																							
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	【1】高一種(福祉)	(平成14年12月取得・実務経験:17年10月)																																							
	【2】	( 年 月取得・実務経験: 年 月)																																							
	【3】	( 年 月取得・実務経験: 年 月)																																							
	【4】	( 年 月取得・実務経験: 年 月)																																							
② 担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別	業務内容 (教員の場合担当教科)		従事期間	実務 年月																																				
	勤務先名 (施設・事業所・学校等)																																								
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◎現在の状況		平成28年4月～現在	7:10																																				
	滋賀県立長浜北星高等学校	〔1〕教諭(教科「福祉」担当)																																							
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◇以下に必要な経歴を記載		平成18年4月～	10:0																																				
	滋賀県立長浜高等学校	〔1〕教諭(教科「福祉」担当)		平成28年3月																																					
		〔 〕		年 月～年 月	:																																				
	〔 〕		年 月～年 月	:																																					
	〔 〕		年 月～年 月	:																																					
	〔 〕		年 月～年 月	:																																					

(様式第5号)

講師選定調書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

氏名	西尾 胡桃	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	専任
担当科目・教科					
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格
(5)	— (1) ~ (2)	【1】	(8)	— (1) ~ (3)	【1】
( )	— ( ) ~ ( )	【 】	( )	— ( ) ~ ( )	【 】
( )	— ( )	【 】	( )	— ( )	【 】
( )	— ( )	【 】	( )	— ( )	【 】
※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。					
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	【1】 高一種(福祉)	(平成29年3月取得・実務経験：6年10月)			
	【2】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
	【3】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
	【4】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
②担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別 勤務先名(施設・事業所・ 学校等)	業務内容(教員の場合担当教 科)	従事期間	実務 年月	
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◎現在の状況	平成29年4月～現在	6:10	
	滋賀県立長浜北星高等学校	[1] 教諭(教科「福祉」担当)			
		◇以下に必要な経歴を記載	年 月～ 年 月	:	
			年 月～ 年 月	:	
			年 月～ 年 月	:	
			年 月～ 年 月	:	

(様式第5号)

講師選定調書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

氏名	岩崎 晴美	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	専任
担当科目・教科					
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格
(3)	(3)	[1]	(9)	(8)	[1]
(3)	(4)	[1]	(9)	(9)	[1]
(4)	(2)	[1]	(9)	(10)	[1]
(9)	(6)	[1]	(9)	(11)	[1]
(9)	(7)	[1]	(9)	(15)	[1]
※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。					
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	[1] 看護師免許 [2] [3] [4]	(昭和62年 3月取得・実務経験：20年4月) ( 年 月取得・実務経験： 年 月) ( 年 月取得・実務経験： 年 月) ( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
②担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別 勤務先名(施設・事業所・ 学校等)	業務内容 (教員の場合担当教科)	従事期間	実務 年月	
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◎現在の状況	平成28年4月～現在	7:10	
	滋賀県立長浜北星高等学校	[1] 実習教諭(教科「福祉」)			
	滋賀県立成人病センター	◇以下に必要な経歴を記載 [1] 看護師	昭和62年4月～ 昭和62年11月	0:7	
	長浜赤十字病院	[1] 看護師	昭和63年4月～ 平成6年4月	6:1	
	虎姫町国民健康保険診療所	[1] 看護師	平成6年6月～ 平成12年5月	6:0	
	長浜市訪問看護ステーション	[1] 訪問看護師	平成12年7月～ 平成20年3月	7:8	
	[ ]	年 月～ 年 月	:		

(様式第5号)

講師選定調書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

氏名	水口 順子	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	専任
担当科目・教科					
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格
開校式・オリエンテーション		【1】	(9) - (6) ~ (12)		【1】
(6) - (1) ~ (2)		【1】	(9) - (15)		【1】
(7) - (1) ~ (4)		【1】	(10) - (1) ~ (2)		【1】
(9) - (2) ~ (3)		【1】	( ) - ( )		【1】
※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。					
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	【1】高一種(福祉) 【2】高一種(看護) 【3】看護師 【4】	(平成13年12月取得・実務経験:20年10月) (平成8年1月取得・実務経験:6年0月) (平成3年5月取得・実務経験: 年 月) ( 年 月取得・実務経験: 年 月)			
② 担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別	業務内容	従事期間	実務年月	
	勤務先名 (施設・事業所・学校等)	(教員の場合担当教科)			
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◎現在の状況	平成28年4月～現在	7:10	
	滋賀県立長浜北星高等学校	[1]教諭(教科「福祉」担当)			
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	◇以下に必要な経歴を記載	平成9年4月	6:0	
	滋賀県立長浜高等学校	[1]教諭(教科「看護」担当)	～平成15年3月		
	福祉系高等学校(介護福祉士養成)	[1]教諭(教科「福祉」担当)	平成15年4月	13:0	
	滋賀県立長浜高等学校		～平成28年3月		
	[ ]	年 月～年 月	:		
	[ ]	年 月～年 月	:		
	[ ]	年 月～年 月	:		

(様式第5号)

講師選定調書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

氏名	高田 静江	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	専任
担当科目・教科					
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格
(9)	— (1)	【1】	(9)	— (9)	【1】
(9)	— (4)	【1】	(9)	— (10)	【1】
(9)	— (5)	【1】	(9)	— (11)	【1】
(9)	— (6)	【1】	(9)	— (12)	【1】
(9)	— (7)	【1】	(9)	— (14)	【1】
(9)	— (8)	【1】	(9)	— (15)	【1】
※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。					
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	【1】 高一種（福祉） 【2】 【3】 【4】	（平成13年12月取得・実務経験：20年10月） （ 年 月取得・実務経験： 年 月） （ 年 月取得・実務経験： 年 月） （ 年 月取得・実務経験： 年 月）			
②担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別 ----- 勤務先名 (施設・事業所・学校等)	業務内容 (教員の場合担当教科)	従事期間	実務 年月	
	福祉系高等学校(介護福祉士養成) 滋賀県立長浜北星高等学校	◎現在の状況 〔1〕教諭(教科「福祉」担当)	平成27年4月～現在	8:10	
	福祉系高等学校(介護福祉士養成) 滋賀県立長浜高等学校	◇以下に必要な経歴を記載 〔1〕教諭(教科「福祉」担当)	平成15年4月～ 平成27年3月	12:0	
	-----	〔 〕	年月～年月	:	
	-----	〔 〕	年月～年月	:	
	-----	〔 〕	年月～年月	:	

(様式第5号)

講師選定調書

○研修全体の期間：令和6年4月 8日～令和7年3月31日

令和6年2月1日作成

氏名	坂東 裕一	承諾を得た日	令和5年12月15日	専任・外部の別	外部
担当科目・教科					
科目番号	教科番号	資格	科目番号	教科番号	資格
(4)	— (2)	【1】	( )	— ( )	【 】
( )	— ( )	【 】	( )	— ( )	【 】
( )	— ( )	【 】	( )	— ( )	【 】
( )	— ( )	【 】	( )	— ( )	【 】
※科目・教科番号には該当する数値。資格は、①の担当科目等に関連する講師要件に係る資格から講師要件に該当する数値を記入。					
①担当科目等 に関連する講 師要件に係る 資格	【1】 作業療法士	(平成17年4月取得・実務経験：17年10月)			
	【2】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
	【3】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
	【4】	( 年 月取得・実務経験： 年 月)			
②担 当 科 目 等 に 関 連 す る 職 歴	施設・事業種別	業務内容	従事期間	実務 年月	
	勤務先名 (施設・事業所・学校等)	(教員の場合担当教科)			
	介護老人保健施設 長浜メディケアセンター	◎現在の状況 〔1〕作業療法士	平成31年4月～現在	4:10	
	介護老人保健施設 坂田メディケアセンター	◇以下に必要な経歴を記載 〔1〕作業療法士	平成17年4月～ 平成31年3月	13:0	
		〔 〕	年 月～ 年 月	:	
		〔 〕	年 月～ 年 月	:	
		〔 〕	年 月～ 年 月	:	